

認知症の方への接し方・対応例

周りの人からすると不可解な行動でも、認知症の方にとっては本人なりの理由があります。相手が何を望んでいるのかを汲み取り、その方の気持ちになって対応することが大切です。

○コミュニケーションの基本

おだやかにゆっくり話す

短くわかりやすい表現で
伝える

会話は本人のペースに
合わせる

○接し方のポイント

間違いを正さない

プライドを傷つけない

不安にさせない

叱らない、命令しない

無理に思い出させない

認知症の方への具体的な接し方(例)

事例①「ものがなくなった」と言う

財布がなくなった！
あなたが盗んだんでしょ

<本人の気持ち>

- ・確かにここに置いたはず
- ・自分がなくすはずがない
- ・知らないうちに隠された



<接し方のポイント>

「それは困りましたね。一緒に探しましょう」と共感しましょう。「このあたりを探してみませんか」と言って本人に見つけてもらいましょう。見つかった時は「よかったね」と一緒に喜びましょう。

事例② 何度も同じことを話す・聞く



<接し方のポイント>

「認知症の方にとっては初めてのことだ」と理解し、初めて聞いたつもりで対応しましょう。忙しい時は後で話す時間を作ることや、さりげなく話題を変えるのもいいでしょう。

事例③ 「病院に行きたくない」と言う



<接し方のポイント>

「一緒に健康チェックに行きましょう」「私の受診についてきて」など、本人が信頼している人から声をかけてみましょう。